

2018（平成30）年5月16日

「モンゴル語諸方言における副動詞接辞-sAArについて」

発表者：ホリロ（東京外国語大学大学院博士後期課程）

モンゴル語の副動詞接辞-sAArはもともと動作や状態の継続を意味するが、内モンゴル地域で使用されているモンゴル語の諸方言では「継続」以外の用法で使われることもある。本発表では、モンゴル系言語全般における副動詞接辞-sAArの先行研究を概観し、その後オラド方言(内モンゴル地域におけるモンゴル語の標準語であるチャハル方言の下位方言)を取り上げ、副動詞接辞-sAArの意味用法を考察した。結果として、副動詞接辞-sAArは元来の継続用法のほかに条件的用法、時間節的用法もしくは理由などの用法を併せ持っていることが分かった。特に仮説条件の用法では、モンゴル語の典型的な条件副動詞接辞-bAlより使用頻度の高い条件副動詞形になっていると考える。